

損益状況

●3行単体合算

(単位:億円)

	平成26年度 中間期	平成27年度 中間期	前年比
業 務 粗 利 益	870	927	57
資 金 利 益	748	753	5
役 務 取 引 等 利 益	105	127	22
特 定 取 引 利 益	1	0	▲0
そ の 他 業 務 利 益	16	47	31
経費(除く臨時処理分)▲	512	498	▲14
業 務 純 益※1	357	429	71
コ ア 業 務 純 益※2	355	399	44
信 用 コ ス ト※3▲	▲47	▲75	▲28

「コア業務純益」は、資産運用商品などの役務取引等利益の増加及び経費減少等により前中間期比+44億円増加の399億円となりました。**【過去最高益】**

「連結経常利益」は、コア業務純益の増加に加え、債券・株式関係損益の増加及び信用コストの減少(戻り益増加)等により、前中間期比+126億円増加の464億円となりました。**【4年連続過去最高益】**

「親会社株主に帰属する中間純利益」は、前中間期比+86億円増加の306億円となりました。**【過去最高益】**

※1 業務純益=業務粗利益 - 経費(除く臨時処理分) - 一般貸倒引当金繰入額

※2 コア業務純益=業務純益 + 一般貸倒引当金繰入額 - 国債等債券損益

※3 信用コスト=一般貸倒引当金繰入額 + 不良債権処理額

●FFG連結

経 常 利 益	337	464	126
親会社株主に帰属する 中 間 純 利 益	220	306	86

総資金(預金+NCD)の状況(3行単体合算)

総資金(預金+NCD)は、個人預金を中心に堅調に推移した結果、27年3月末比303億円増加し、12兆7,555億円となりました。

※NCD…譲渡性預金

総資金残高(期末残高) 福岡銀行 熊本銀行 親和銀行

(単位:億円)

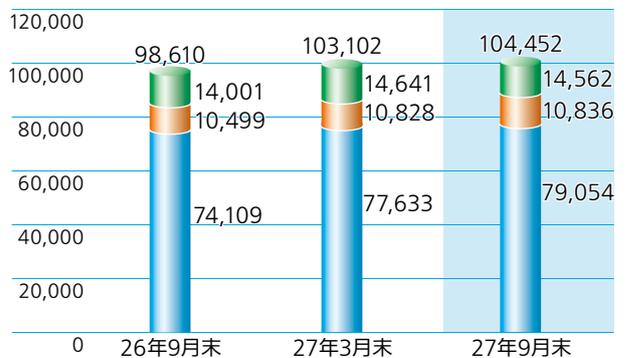


貸出金の状況(3行単体合算)

貸出金は、地元企業や個人のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えした結果、27年3月末比1,349億円増加し、10兆4,452億円となりました。

貸出金残高(期末残高) 福岡銀行 熊本銀行 親和銀行

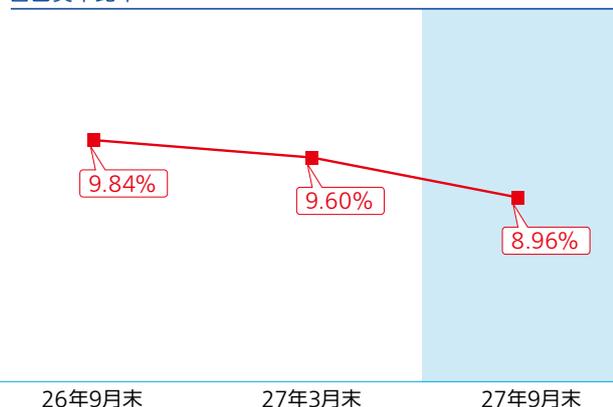
(単位:億円)



自己資本比率の状況(連結ベース)

自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、27年3月末比0.64%低下し、8.96%となりました。

自己資本比率



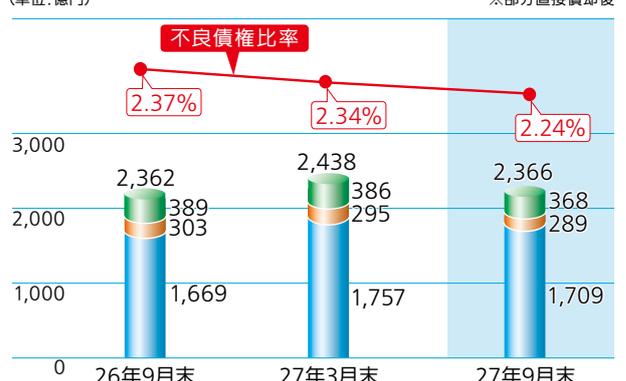
不良債権の状況(3行単体合算・部分直接償却後)

不良債権残高は、27年3月末比72億円減少し、2,366億円となりました。不良債権比率は同0.10%低下し、2.24%となりました。

不良債権残高・比率 福岡銀行 熊本銀行 親和銀行

(単位:億円)

※部分直接償却後



損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	平成26年度 中間期	平成27年度 中間期	前年比
業 務 粗 利 益	621	674	54
資 金 利 益	533	542	9
国 内 部 門	500	507	7
国 際 部 門	33	35	2
役 務 取 引 等 利 益	75	93	18
特 定 取 引 利 益	1	0	▲ 0
そ の 他 業 務 利 益	12	40	27
経費(除く臨時処理分)▲	334	330	▲ 4
業 務 純 益	287	345	58
コ ア 業 務 純 益	285	320	35
経 常 利 益	310	402	92
中 間 純 利 益	208	283	75
信 用 コ ス ト ▲	▲ 31	▲ 43	▲ 11

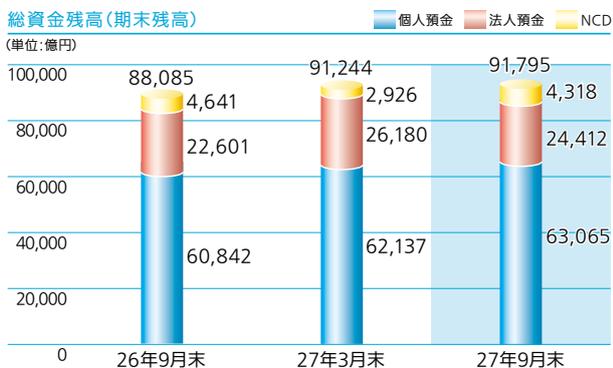
「コア業務純益」は、資金利益及び資産運用商品などの役務取引等利益の増加を主因に、前中間期比+35億円増加の320億円となりました。

「経常利益」は、コア業務純益の増加に加え、債券・株式関係損益の増加及び信用コストの減少(戻り益増加)等により、前中間期比+92億円増加の402億円となりました。

「中間純利益」は、前中間期比+75億円増加の283億円となりました。

総資金(預金+NCD)の状況

個人預金・NCDが順調に増加した結果、27年3月末比551億円増加し、9兆1,795億円となりました。



貸出金の状況

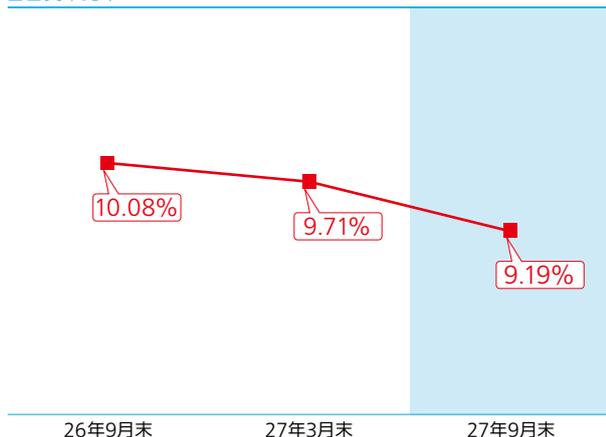
法人貸出金・個人貸出金ともに順調に増加した結果、総貸出金は27年3月末比1,421億円増加し、7兆9,054億円となりました。



自己資本比率の状況(連結ベース)

自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、27年3月末比0.52%低下し、9.19%となりました。

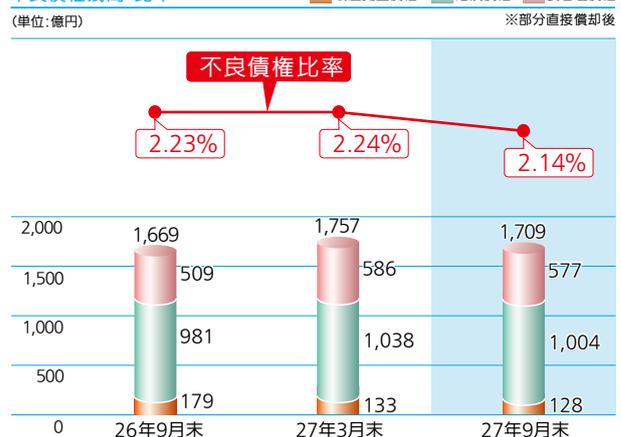
自己資本比率



不良債権の状況(部分直接償却後)

不良債権残高は、27年3月末比48億円減少し、1,709億円となりました。不良債権比率は同0.10%低下し、2.14%となりました。

不良債権残高・比率



損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	平成26年度 中間期	平成27年度 中間期	前年比
業務粗利益	102	105	2
資金利益	91	91	▲1
国内部門	91	91	▲1
国際部門	0	0	▲0
役務取引等利益	9	12	3
特定取引利益	—	—	—
その他業務利益	2	2	0
経費(除く臨時処理分)▲	70	68	▲1
業務純益	33	36	4
コア業務純益	32	35	3
経常利益	33	48	14
中間純利益	52	36	▲16
信用コスト▲	▲5	▲13	▲8

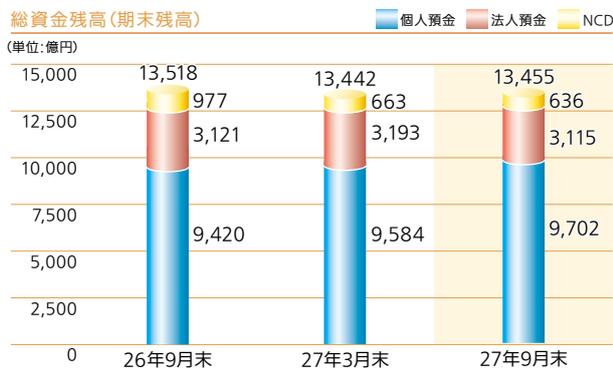
「コア業務純益」は、資産運用商品などの役務取引等利益の増加や経費減少等により、前中間期比+3億円増加の35億円となりました。

「経常利益」は、コア業務純益の増加に加え、信用コストの減少(戻り益増加)等により、前中間期比+14億円増加の48億円となりました。

「中間純利益」は、前中間期比▲16億円減少の36億円となりました。

総資金(預金+NCD)の状況

個人預金が順調に増加した結果、27年3月末比12億円増加し、1兆3,455億円となりました。



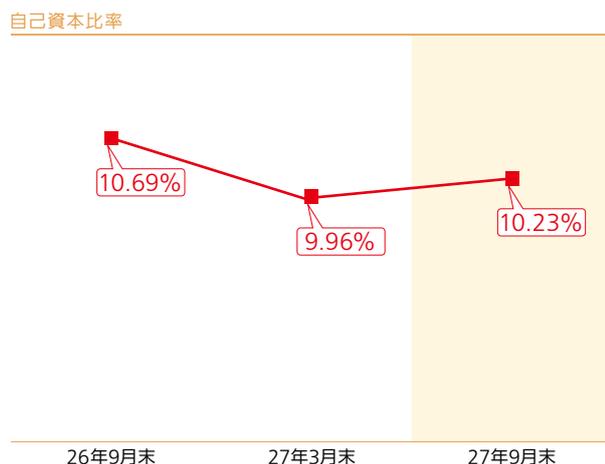
貸出金の状況

住宅ローンを中心とする個人貸出金が順調に増加した結果、総貸出金は27年3月末比7億円増加し、1兆836億円となりました。



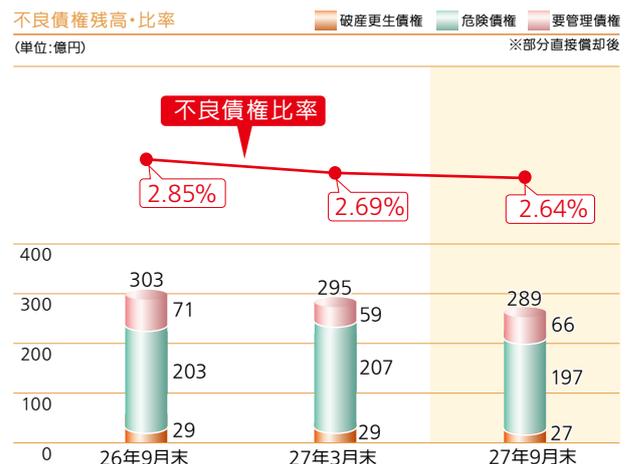
自己資本比率の状況(単体ベース)

自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、27年3月末比0.27%上昇し、10.23%となりました。



不良債権の状況(部分直接償却後)

不良債権残高は、27年3月末比6億円減少し、289億円となりました。不良債権比率は同0.05%低下し、2.64%となりました。



損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	平成26年度 中間期	平成27年度 中間期	前年比
業務粗利益	147	148	1
資金利益	124	121	▲4
国内部門	124	120	▲3
国際部門	0	0	▲0
役務取引等利益	20	22	2
特定取引利益	—	—	—
その他業務利益	2	5	3
経費(除く臨時処理分)▲	109	100	▲9
業務純益	38	48	10
コア業務純益	37	44	6
経常利益	45	66	20
中間純利益	31	50	19
信用コスト▲	▲11	▲20	▲9

「コア業務純益」は、貸出金利回りの低下による資金利益の減少を、資産運用商品などの役務取引等利益の増加や経費減少でカバーした結果、前中間期比+6億円増加の44億円となりました。

「経常利益」は、コア業務純益の増加に加え、債券損益の増加及び信用コストの減少(戻り益増加)等により、前中間期比+20億円増加の66億円となりました。

「中間純利益」は、前中間期比+19億円増加の50億円となりました。

総資金(預金+NCD)の状況

個人預金・NCDが増加する一方で、法人預金が減少した結果、27年3月末比260億円減少し、2兆2,305億円となりました。



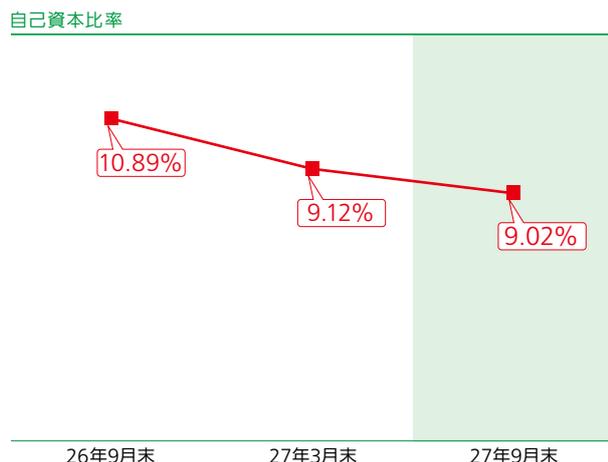
貸出金の状況

個人貸出金が順調に増加する一方で、法人・公金貸出金が減少した結果、総貸出金は27年3月末比79億円減少し、1兆4,562億円となりました。



自己資本比率の状況(単体ベース)

自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、27年3月末比0.10%低下し、9.02%となりました。



不良債権の状況(部分直接償却後)

不良債権残高は、27年3月末比18億円減少し、368億円となりました。不良債権比率は同0.10%低下し、2.51%となりました。

